



## 自分なりの軸を育てる

代表取締役社長  
安永 暁俊

今回も、前回「社会人としての心構え」の続きを述べます。

前回は要約すると、プロの世界を生きるには持続力が大事で、持続するために、自分なりの軸となるフォームを育てるべきだ、となります。

フォームとは、自分なりの①「技術や技能」の形に加えて、それに至るまでの②「心掛けや心構え」を指します。

### 社会人としての技術や技能、知識、思考力等

①には、「技術や技能に加え、知識、思考力、改善力など」があり、それらは身体と頭を使って表現することです。昔から、「手に職をつける」「腕に覚えがある」「頭を振り絞る」など、身体や頭を使った表現がたくさんあります。

実際の行動を指しますので、長い年月をかけて、

つながります。また、過去の失敗は、割といつまでも覚えていて次に活かされます。

✓要領だけを考えてしまうと、「面倒な頼まれ仕事を避けるようになります。それでは、将来自分のやりたい仕事ができにくくなります。始めは、面倒な仕事にこそ、積極的に首を突っ込む姿勢でいることです。大変なこともあります。その経験が後々生きてきます。以前に面倒な仕事を引き受けた皆さんは、今度は、手間のかかる仕事を頼みやすい関係ができるからです。

### 社会人としての思考力、改善力

愚直に仕事をする大切さは理解したとして、毎日同じ作業を繰り返していると、どうしてもマンネリになりがちです。毎日の仕事に「新しい何か」を発見するのは意外に難しいことです。

「新しい何か」を見つけるには、まず何よりも目標を見定めることをお勧めします。目標とは、自分が思うべき姿、ありたい姿です。

自分自身や職場が、将来こうなるといいなという想いを形にしてはどうでしょうか。いつもと同じ仕事だけれども、「いつもより早く終わらせよう!」「いつもと違うやり方で同じ成果を目指そう!」「長年の慢性的な問題を解決しよう!」というのも目標になります。

それらの目標を達成できたら、より良い未来が待っています。当然のことながら、今までの品質・コスト・納期を改善させるような結果ではないけいので、頭を振り絞って、改善目標とその方法を考える必要があります。

その目標を達成するために、知恵をふりしぼつ

少しずつ鍛錬して上達させるべき所です。

一方、②の「心掛けや心構え」とは、決心することや、心に留めておくことです。

行動する前の意識を指しますので、直ぐに持てる手軽さもありますし、その意識がしばらくして消えてしまう場合もあります。

前回は②「心掛けや心構え」について説明しましたので、今回は①「技術や技能など」について述べます。特に、この社内報を一番手に取っている、製造現場の若手の皆さんに伝えたいと思います。

### 社会人としての技術、技能

製造現場での初めての仕事は、分からないことだらけです。新人の皆さんはだれでも、時間を掛けて先輩方の名前を覚え、仕事を覚えなす。

一方、職場の先輩方は、その職場で5年10年と過ごしていて、どうやって仕事を進めたらいいかわかっています。この立場の違いを埋めるには、少し時間がかかりますが、誰もが通る道であり、必ず埋められる差でもあります。

始めにお勧めしたいのは、職場で先輩がどのように動いているかをじっくりと観察することです。毎日毎日見ていると、段々と仕事の流れが見えてきます。この観察する力はとても大事です。

次にお勧めしたいのは、教えられた動作を繰り返すことです。初めての作業を言葉で説明されたときに、頭で理解すると思えます。

ただ、それだけでは不十分で、自分の身体で覚えるまで何度も繰り返し返す、そうするとコツがつかめてきます。そのうち、身体が自然と反応するようになります。指先で微妙な差を感じたり、五感が研ぎ澄まされていきます。

て考え、試行錯誤をすることが、仕事のおもしろさにつながるはず。毎日の繰り返し仕事でも、目標に向かって進むプロセスの中に、自分らしきようなものが出てくれば、仕事の喜びを感じるようになるはず。なにより、前進する楽しみがあります。

皆さん一人ひとりが、目標を立てそれを達成していく。多くの方が、その成果を積み重ねていくと組織の力も高まります。組織の効率が上がれば、より短い時間で同じだけの成果を出せるようになります。皆さんが有効に使える時間が増えます。

昔の製造現場は、単能機に専属で人がつき、手持ち範囲は狭いものでした。現在は、機械やロボットが並んだ自動ラインが主流で、より少数人数で、より手持ち範囲も広がっています。機械やロボットの知識も必要で、チョコ停の対応もあります。つまり、製造の範囲とその隣にある技術や保全等の範囲が重なり合ってきました。

今後、仕事で求められる技術や技能、知識は、益々広がっていきます。皆さんが自身を奮い立たせて、これらを習得すればするほど、「新しい何か」が次から次へと出てきます。

### 社会人としての実力

日々向上心をもって、技術や技能、知識、思考力、改善力をコツコツと吸収し身につけることで、いつの間にか実力がついてきます。

そうなってくると、自分なりに仕事を楽しむコツが分かってくる、仕事が楽しいと感じるようになります。また、積み重ねた技能や知識を使って、職場でも周りを引っ張る役割が増えてきます。周りから何かと頼られるようになり、自身のやりが

### 社会人としての知識

仕事に必要な知識もたくさんあります。製造現場で起きている色々な事象が、知識を得ることで対処できるようになっていきます。何も知識がない状態から、機械の操作を覚え、刃物や切削の知識がつくと、問題の解決に近づきます。

仕事に必要な知識は、世間一般から得るものもあれば、会社独特のものもあります。挨拶の仕方、電話の取り方、物の呼び方でも、会社や組織によって独特です。

自分が仕事をする上で、部署や部門によって、仕事の進め方は変わります。数多くある部署がどんな仕事をしているのか、自分のしたいことはどの部署に頼めばいいのか、組織に慣れて仕組みを理解しないと、戸惑うことになります。色んな人が関わっている大きな組織を動かすには、そのための知識が必要です。

### 技術、技能、知識の習得

技術や技能、知識の習得に近道はありません。皆さんがコツコツやるしかありません。お勧めしたいのは、要領よりも愚直に習得することです。なぜなら次の3つの理由があるからです。

✓皆さんも経験あると思いますが、簡単に覚えたことよりも、覚えるのに苦労して時間がかかったことの方が、なかなか忘れにくいものです。

✓仕事に失敗はつきものです。ですが、要領だけを覚えてしまうと、ついつい失敗に臆病になってしまします。自分の間違いを恐れずに大きく仕事をしてください。失敗したときは、潔くそれを認めればよいのです。潔さは人間としての魅力にも

いも出てきます。

製造現場の先輩方で、海外で活躍する方も増えてきました。いずれの方も、自分なりの軸を育てながら、実力を蓄えてきました。製造現場で培った基礎を軸にして、海外でも自信をもって活躍されています。皆さんも、そんな先輩に続いてほしい、そう思います。

### 仕事の軸は、人生の軸となる

今まで話したことは、何も仕事だけにとどまりません。皆さんが身体や頭で体得してきたことは、身の周りや地域でも役に立ちます。

日々の改善活動の中で培われてきた、目標を設定する思考力や問題を解決する改善力は、世の中にある様々な問題を解決する糸口になります。愚直に物事を進める力強さは、時間が経つほど他人からの信頼につながります。物事への誠実さは、争いが起きがちな現代社会において、よりよい人間関係の構築につながります。

つまり、自分なりの軸を育てる人は、本人や周りにとつて「楽しく、頼もしい、豊かな社会人生活」を何十年も送ることができるのです。

以上、当り前ともいえますが、正攻法を述べてきました。是非、これを読んだ先輩方も「コツコツやるのは苦しいけど、その先に豊かな人生が切り開かれる」と後輩に語ってください。

皆さんがこれから身につける、自分の軸となるフォーム(技術、技能、知識、思考力など)が、仕事だけでなく、昨日よりも今日をより良い日にする、人生における大きな軸となるのです。

参考文献「なんでだろう」から仕事は始まる! 小倉昌男著